小平こども園　絵本だより

えほんのひろば

No.5

令和元年
9月13日(金)
平田村立小平こども園

教育ではなく大人も子どもも共に育つ「共育」（ともいく）

「共育」とは何か…。「キョウイクじゃなくトモイク？」。
一見、同じ読み方のように見えますが、実は全然違うんです。この言葉の意味は、「親や教師が主体となって子どもに教育するのではなく、そもそも指導を行う側と受ける側が共に学び成長すること」だそうです。実際に保護者のみなさんにも、お子さんに物事を教えていながら「あっ…そうかも…」と感じる部分ってありませんか？教えているのに教えられてるような気分。また、はじめは面倒くさいなあと感じていた子どもとの遊びが実は親の方が本気になってしまったりすることってありませんか？

この「共育」。実は、絵本の読み聞かせが一番楽しく子どもも大人も実行できるんです！物語を読んでいくうちに「次はどうなる！？」というワクワク感は、大人も子どもも同じ感情ですが、最後の締めくくりで感じる思いは果たして全く同じでしょうか？その感想をお互いに話し合ってみると、お子さんの素直な一面や優しい気持ちや人を思いやる心を持っていることに感動してしまうかもしれませんよ！



福島子どもの読書活動推進フォーラム



去る９月７日（土）、伊達郡国見町において、福島うちどくネットワーク主催による読書活動推進フォーラムが開催され、国見町子ども司書による群読や絵本作家のきむらゆういち氏の講演、親子で読書を楽しむヒントを探るパネルディスカッションなど、読書の良さや絵本の魅力について素晴らしい学びとなる時間を過ごしてまいりました。



きむらゆういち氏の代表作に「あらしのよるに」という絵本があります。このお話は、大雨の嵐の夜に出会った怖いオオカミと弱虫なヤギのお話です。ひょんなことからこの２匹は同じ屋根の下で雨宿りすることに…。お互いに暗くて姿は見えないけれど、話をしていくうちに友情が芽生える。姿が見えないからこそお互いを信頼している関係…。雨もやみお互いに帰ることになると明日も会おう！と約束する。「あらしのよるに」という合言葉を決め２匹は別れる…。次の日、どうなったと思いますか？２匹は会ったのでしょうか。それともお互い同じ動物と思っていたからこそ、姿を見ても分からなかったでしょうか？まさか…！食べられてしまった！？　色々な想像で次はどうなるのかが気になりますよね？この絵本には続きもありますが、ぜひ皆さんも親子で読んでみてはいかがでしょうか。



この絵本作家のきむらゆういち氏は、絵本に対して「学校の勉強は過去を学ぶもの。絵本は未来を学ぶもの。」という思いが込められているそうです。学校の勉強は、過去にあった出来事や結果を学ぶものであり今を生きるための力を養う。しかし、絵本は物語の続きを想像したり未来を想像したりするという、未来に向けた気持ちの学びととらえていくものだと…。きむらさんはこう言います。「絵本は音楽と一緒。いい曲だからこそ次も聴きたくなる。絵本も「これだ！」と思える本は、結果が分かっていてもまた読みたくなる。」と。子ども達がこの一年で大好きな一冊に出会えることを心から願います。



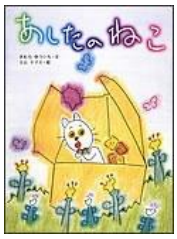
パネルディスカッションでは、パネリストの皆さんから読書を楽しむためのヒントがたくさんあげられました。絵本の魅力とは「ドラマティックな展開を期待するワクワク感」「自分もやってみたい体験を絵本の中ではやってくれるような疑似体験ができること」（福大名誉教授・高野保夫先生）「主人公への共感から生まれる感情＝自分は必要な存在で誰かの役にたてるのだと思える自己有用感を感じられる事」（シーエスアールスクエア理事長・宍戸仙助氏）などのご意見をうかがうことで、改めて絵本の魅力とは何かを発見する機会とすることができました。また、「うちどく」が持つ「力」を改めて実感できる時間でもありました。

裏面へつづく

うちどく.com

きむらゆういち氏の絵本紹介

きむらゆういち氏の絵本には、本当に心を揺さぶられるような感情を抱く絵本がたくさんあります。先日のフォーラムで読み聞かせが行われた絵本を紹介します！読めば読むほど親子一緒に考えさせられる絵本ばかりです！



「あしたのねこ」

たくさんの兄弟と共にうまれてきた子猫。飼い主に兄弟と共に捨てられダンボール箱生活が始まります。どら声で見た目もかわいいとは言えない子猫だけが拾われず残ってしまう…。ある日箱から飛び出し広い世界へ。仲間や兄弟なんかいなくたって自由があるじゃないか！と前向きに生きようと決心する子猫。気持ちを前向きに生きようとすればするほど不幸が襲ってくる。もう自分は死んでしまうんだ…と思った時、人間に救われ生きていくことができたというお話です。どんなに嫌な事不幸だと感じる日々も、きっと良いことはあるというお話。人間はいつも自分に基準をつくっているが、基準を低くすれば幸せは多くみつかるというお話でもあります。

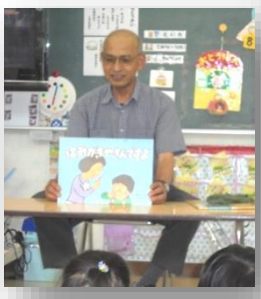


「オオカミグーのはずかしいひみつ」

みなしごのおおかみグーは、心優しいイタチに拾われ生きることができました。でも、自分のお母さんがイタチだなんて友達にいえないグーは、お母さんを無下に扱うようになります。まるで思春期の男の子のように…。成長したグーは仲間の中のリーダーとなり「強者」の象徴となる。そんな時、敵グループのおおかみ達に捕まり瀕死の状態に…。ずっとグーを陰で見守っていた母親イタチが、自分の命と引き換えにグーを助けます。そんなイタチの母親に対してグーはようやく親の有難さに気付く。時すでに遅し…。子を思う親の気持ちと子どもの複雑な心理を分かりやすく描いています。また、たとえ見た目が違う生き物同士でも、思う気持ちは同じだという教訓にも思えます。この絵本、思春期の子どもと共に読んでほしい一冊ですね。**涙・涙の絵本**です。

絵本お話会がありました！

去る８月２９日（木）に、お話ボランティア夢工房のみなさんが来園し、絵本の読み聞かせを開催して下さいました！いつもながら楽しい絵本ばかりで、子ども達も絵本の世界に引き込まれていました！バッタの絵本もあり、そのあとしばらく子ども達の間ではバッタブームが巻き起こり、図鑑を片手に外遊びもおおいに楽しみました！









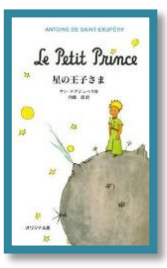




今月のちょっといいコトバ



「きちんと決めてあるから、ある一日が他の日と異なる。
ある時間が、ほかの時間と異なる。」
サン＝テグジュペリ＊内藤　濯　訳



本の中に登場する「キツネ」の言葉です。普段ダラダラとなんとなく過ごしてしまっていることってありませんか？「今日はコレを絶対にやるんだ！」と、あらかじめ何をするかを考えて行動した一日は、きっと特別な一日になる。夜寝る前に「今日は充実したなあ」とか、「明日も続きをやろう！」など、きっと前向きな明日を想像しながら眠ることができるのではないでしょうか。自分の人生の「スパイス」をちょっと利かせて、目標をもった明日を迎えたいですね！